

(禁無断転載)

スライド 1

機械安全とビジネス環境

一橋大学大学院商学研究科
栗原 史郎
cc00207@srv.cc.hit-u.ac.jp
講演会「機械安全国際規格の紹介一人を検出する保護設備関連特集」
主催：(社)日本機械工業連合会
2009年12月15日
女性と仕事の未来館（東京都港区）

1

スライド 2

過去10年間に事故や不祥事が続発

- 東海村JCO臨界事故(作業工程の不備)
- 戦後最大規模の1万4000人もの発症者を出した雪印乳業集団食中毒事件(原料リスクが想定外)
- 三菱自動車工業のリコール隠し(組織文化に問題)
- 東京電力の原子炉13基の自主点検の作業記録に原子炉部品のひび割れ隠しなど、改ざんが発覚(組織文化に問題)

2

過去10年間に事故や不祥事が続発

- 自動回転ドアによる死亡(安全規格が未作成)
- JR西日本で電車の脱線(運転ミス、ATSの未設置)
- アスベスト禍(グローバルスタンダード不適合)
- 耐震強度偽装(不正なコスト削減手法)
- 石油ファンヒーターやガス湯沸かし器による一酸化炭素中毒(不正改造、劣化)

3

過去10年間に事故や不祥事が続発

- シンドラー社エレベーターでの死亡(維持管理が不適切)
- エレベーターのワイヤロープ破断、ジェットコースター車軸破断(補修・維持管理が不適切)
- 三洋扇風機出火(経年劣化)
- 建材耐火性能偽装(厳しい価格競争が背景)
- 住宅用ドアが倒れ骨折(ちょうつがい部分の部品直径が設計上の寸法より小さく、緩んで抜け落ちた)

4

原因はどこにあるのか

- 現場レベルの原因
原料や機械、作業工程のリスク、および作業者のミス
すなわち、
4M(material,machine,method,man)に問題
- 経営レベルの原因
事故隠し文化、安全投資不足、現場まかせ

5

安全の担い手は(1)国

- わが国には憲法も含め1799件の法律があるが(2009年9月1日現在)、国による規制には限界
- 強制的義務付けの基準は「必要最小限」
- 構造規格が多く、イノベーションに対応できない(欧州のニューアプローチに対して、日本はベリーオールドアプローチ)
- 耐震強度偽装で明らかにされたように、国のチェックも全面的には信頼できない

6

安全の担い手は(2)企業

- 現場レベルの対応
- 4Mシステムを対象としたリスクアセスメントの徹底の実施が安全確保の原点
- 現場を起点とした設計、生産技術、工場長などへのリスク情報伝達と安全対策の提案

7

安全の担い手は(2)企業

- 経営レベルの対応
- 従来からの「安全はコスト」という後ろ向きの考え方から、
- 「安全は競争力」という前向きのコンセプトへの転換が必要
- 経営理念や戦略、経営システムの中に安全を組み込め

8

スライド 9

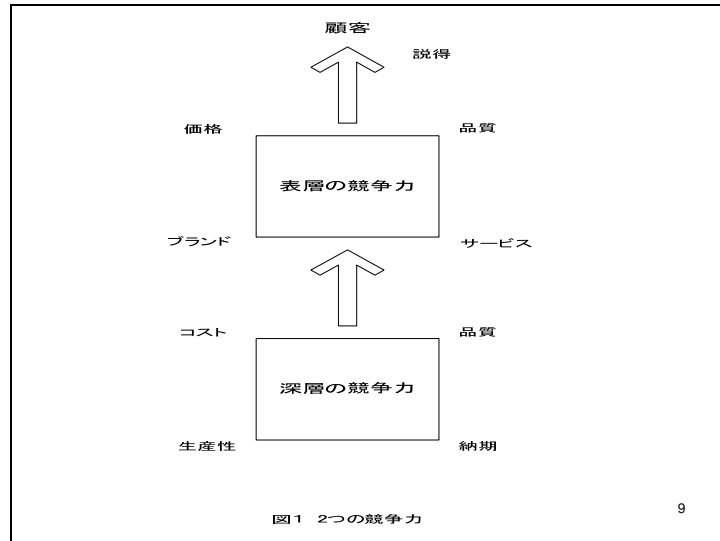


図1 2つの競争力

スライド 10

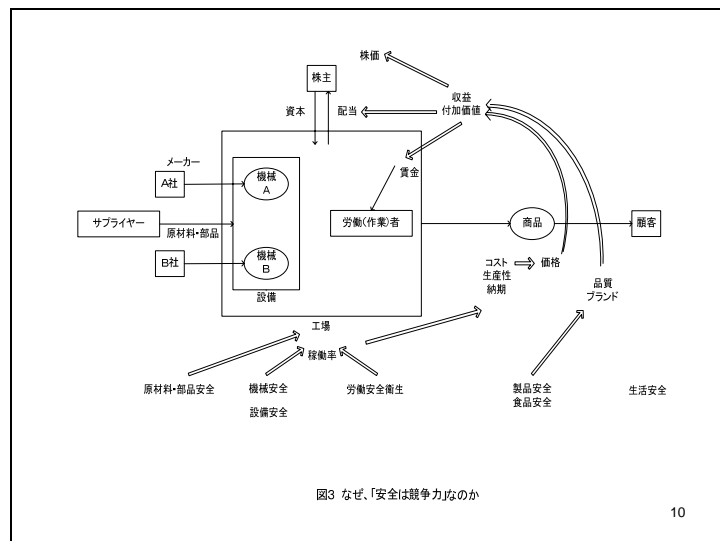


図3 なぜ、「安全は競争力」なのか

安全の担い手は(3)顧客

- 安全重視型顧客の創造はできるか
- 短期的な満足よりも、安全・健康・環境という人間社会や地球の長期的便益をめざす消費者が増えている

現場力を伸ばす安全経営システムの構築が急務

機械安全推進特別運動のスローガン

- ヒトは間違い
- 機械は故障
- 現場まる投げ事故の元
- リスク一つで株価急落
- アセスメントで事故用心

参考文献

- 栗原史郎監修/(社)日本機械工業連合会 編
『安全は競争力』
日刊工業新聞社
2009年11月

That's all for today

ご清聴を

Thank you

so much